FFTA7 Series

バーコードリーダ

共通取扱説明書

Ver.1.2b

対応機種：

FFTA7A シリーズ（テンキー無しタイプ・白）

FFTA7B シリーズ（テンキー無しタイプ・黒）

FFTA7T シリーズ（テンキー付きタイプ）

日栄インテック株式会社

はじめに

このたびはバーコードリーダ＜FFTA7 シリーズ＞をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本取扱説明書には、＜FFTA7 シリーズ＞の取り扱い方法、接続方法および内部パラメータの設定方法について記載してありますので、ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、安全に正しくお取り扱いくださるようお願い致します。また、本書は、お読みになった後も、必要なときにすぐに見られるよう、大切に保存しておいてください。

ご注意

(1) 本書の内容の全部または一部を無断で複製することは禁止されています。
(2) 本書の内容については改良のため予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
(3) 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがございましたら巻末の弊社担当窓口までご連絡くださるようお願い致します。
(4) 本書に基づいて＜FFTA7 シリーズ＞を運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず弊社では責任を負いかねますのでご了承くださるようお願い致します。

商標について

Microsoft® Windows®は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他の商標および登録商標は、所有各社に帰属します。

目次

はじめに 2
ご注意 2
商標について 2
目次 i
安全上のご注意 1
梱包内容 2
接続手順 2
PS/2 キーボードインタフェースの接続手順 2
RS-232 インタフェースの接続手順 2
USB キーボードインタフェースの接続手順 3
USB 仮想 COM インタフェースの接続手順 4
設定手順 6
設定を中止するには 6
出荷時設定 7
USB インタフェース／PS/2 インタフェースの出荷時設定 7
RS232 シリアルインタフェースの出荷時設定 8
スキャンモードの設定 9
エイミング照射の設定 11
読取確認 LED 色の設定 7T 11
ブザー設定 12
1. ブザー音の設定 12
2. ブザー音長 12
3. 準備完了ブザーのオン／オフ切替 12
キーボード接続の各種設定（USB および PS/2 共通） 13
1. キーボード種類（国別）設定 13
2. 文字送信（キーストローク）速度 13
USB インタフェースの各種設定 13
1. HID / 仮想 COM の選択 13
RS-232 接続の各種設定 14
初期設定値 14
1. ボーレート 14
2. データビット 14
3. パリティ 15
4. ハンドシェイク 15
5. ACK/NAK タイムアウトの設定 16
6. ACK/NAK の詳細設定 17
付加文字列の設定 18
FFTA7A/FFTA7B プリフィックス／サフィックスの設定 18
FFTA7T プリフィックス／サフィックスの設定 7T 20
FFTA7T におけるプリフィックス／サフィックスの構造 7T 20
数量プリフィックス／数量サフィックスの設定 7T 21
データプリフィックス／データサフィックスの設定 7T 23
数量データ付加位置の設定 7T 25
データキャリア識別子（コード ID）の設定 26
1. JIS X0530 形式 26
データキャリア識別子とは… 26

2. カスタム設定 27
データ加工機能 29
読み取りバーコードシンボル体系の設定 31
すべてのバーコードシンボル体系の読取りを有効にする 31
すべてのバーコードシンボル体系の読取りを無効にする 31
バーコードシンボル体系　有効／無効の設定 32
JAN / EAN -13 32
JAN / EAN -8 32
UPC-A 32
UPC-E 32
コード 39 32
コーダバー（NW7） 32
インタリーブド 2 オブ 5 33
インダストリアル 2 オブ 5 33
マトリクス 2 オブ 5 33
コード 128 33
コード 93 33
コード 11 33
MSI / Plessey 34
TELEPEN 34
Pharmacode 34
GS1 データバー（DataBar） 34
JAN / EAN-13 の詳細設定 35
1. 読み取り許可 35
2. JAN / EAN -13 チェックキャラクタ送信 35
JAN / EAN-8の詳細設定 35
1. 読み取り許可 35
2. チェックキャラクタ送信 35
UPC-A の詳細設定 36
1. 読み取り許可 36
2. UPC-A チェックキャラクタ送信 36
UPC-E の詳細設定 36
1. 読み取り許可 36
2. チェックキャラクタ送信 36
UPC / JAN / EAN 変換の設定 37
1. UPC-E を UPC-A に変換 37
2. UPC-A を JAN / EAN-13 に変換 37
3. JAN / EAN-8 を JAN / EAN-13 に変換 37
4. 図書 2 段バーコード上段を ISBN 10 桁に変換 37
JAN / EAN / UPC アドオンの設定 38
1. JAN / EAN / UPC アドオン 2 桁／5 桁 必須選択 38
2. JAN / EAN / UPC アドオン 2 桁／5 桁 許可 38
3.「491～」で始まる JAN-13 桁のアドオン必須設定 38
コード 39 の詳細設定 39
1. 読み取り許可 39
2. ASCII 変換 39
3. スタート／ストップキャラクタ送信 39
4. チェックキャラクタ照合 39

5. チェックキャラクタ送信 40
コーダバー（NW7）の詳細設定 41
1. 読み取り許可 41
2. スタート／ストップコード送信 41
3. スタート／ストップコード 41
4. キャラクタ間ギャップのチェック 42
5. チェックキャラクタの照合（モジュラス 16） 42
6. チェックキャラクタの送信 42
7. 読取り桁数範囲の指定 43
インタリーブド 2 オブ 5（ITF）の詳細設定 44
1. 読み取り許可 44
2. チェックキャラクタ照合 44
3. チェックキャラクタ送信 44
4. 読取り桁数範囲の指定 44
インダストリアル 2 オブ 5 の詳細設定 45
1. 読み取り許可 45
2. チェックキャラクタ照合 45
3. チェックキャラクタ送信 45
4. 読取り桁数範囲の指定 45
マトリクス 2 オブ 5 の詳細設定 46
1. 読み取り許可 46
2. チェックキャラクタ照合 46
3. チェックキャラクタ送信 46
4. 読取り桁数範囲の指定 46
コード 128 （GS1-128 を含む）の詳細設定 47
1. 読み取り許可 47
2. <FNC1>置き換え設定 47
保守メニュー 48
1. ファームウェアのバージョン確認 48
RS232 ケーブル ピン配列表 49
ASCII キャラクタ配列表（00hex～7Fhex） 49
特殊キー配列表（81hex～C2hex） 50
サンプルバーコード 51
プリフィックス／サフィックス付加文字一覧 53
16進設定バーコード 58

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。

本書では、製品を安全に正しくお使いいただくため、また機器の損傷を防ぐため、次の記号を用いて、守っていただきたい事項を示しています。

⚠警告	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示の内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

記号の意味:

△記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを示しています。

⃠記号は、禁止(してはいけないこと)であることを示しています。

❗記号は、必ずして欲しい内容を示しています。

⚠警告

重要:システム設計者へ

◆ 薬品の管理など、人命に影響を与える可能性があるシステムでは、データが誤った場合でも人命に影響を与える可能性が無いよう、冗長設計、安全設計には十分ご注意ください。

◆ 次のような場合は、すぐにホスト側の電源を切り、インタフェースケーブルのコネクタを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、事故または故障の原因になります。
- 煙がでている場合、変なにおいや音がしている場合
- 製品の内部やすき間に、金属片や水などの異物が入った場合
- 製品を落とすなどして動作しなくなった場合、ケースが破損した場合

◆ 製品を分解したり、改造したりしないでください。
事故や故障の原因になります。

◆ 湿気の異常に多い場所や水滴のかかる可能性のある場所では使用しないでください。
火災や感電、故障の原因になります。

◆ 製品の内部やすき間に、金属片を落としたり、水などの液体をこぼしたりしないでください。
火災や感電、故障の原因になります。

◆ 濡れた手で、インタフェースケーブルなどを接続したり取り外したりしないでください。
感電の原因となることがあります。

⚠注意

次のようなことは、絶対に行なわないでください。守らないと、火災や感電、事故または故障の原因となります。

◆ スキャナ本体やインタフェースケーブルの上に重たいものを置かないでください。また重いものの下敷きにならないようにしてください。

◆ スキャナ本体をたたいたり落としたりして衝撃を与えないでください。

◆ 不安定な場所に置かないでください。

◆ インタフェースケーブルを無理に曲げたり、ねじったり、強く引っ張ったりしないでください。

梱包内容

製品がお手元に届きましたら、すぐに開梱して以下のものが揃っているかご確認ください。
もし、不足・破損などがありましたら、ご購入先の販売店または巻末の弊社担当窓口までご連絡ください。

- ◆ スキャナ本体(インタフェースケーブル接続済み) 1
- ◆ ご利用の手引き 1
- ◆ 保証書／ユーザ登録書／修理依頼書 1

接続手順

PS/2 キーボードインタフェースの接続手順

(1) スキャナのケーブルが、PCに正しく接続できるか確認します。
(2) PCの電源を切ります。
(3) キーボードをPCから取り外します。(デスクトップ PC の場合)
(4) キーボードをスキャナのケーブルの分岐している部分に取り付けます。(デスクトップ PC の場合)
(5) スキャナのケーブルをPCに接続します。
(6) PCの電源を入れます。
(7) スキャナのブザーが鳴れば、準備完了です。
※ 設定によっては、2 回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。
※ ノートブック PC で利用する場合は、「インタフェースの選択(P13)」でノートブック接続に設定します。
(8) 読取テスト:
文字入力できるアプリケーション(メモ帳など)を起動して、次のテストバーコードを読み取ります。

テストバーコード

カーソルの位置に「12345」と入力されていればテスト OK です。セットアップは完了しました。
この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。
※ ノートブックPCによっては、「ノートブック接続」に設定した後、一旦PCの電源を切って電源を入れ直さないと、バーコードの読取りができない場合があります。

RS-232 インタフェースの接続手順

(1) スキャナのケーブルが、使用するホスト装置の RS-232 ポートに正しく接続できるか確認します。
(2) ケーブルをホスト装置の RS-232 コネクタに接続します。
(3) スキャナに電源が供給されているか確認してください。
※ 一般に、PC の COM ポートからは電源供給されません。PC の COM ポートに接続して使用する場合は、別途、オプションの AC アダプタをお買い求めください。
(4) 電源が供給され、スキャナのブザーが鳴れば、準備完了です。
※ 設定によっては、2 回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。
この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

USB キーボードインタフェースの接続手順

FFTA7 シリーズ（USB インタフェース）は、出荷時にキーボード（HID）インタフェースに設定されています。

(1)　ドライバのインストール

FFTA7 シリーズ を初めて PC に接続する際、「USB ヒューマン インターフェイス デバイス」ドライバのインストールが必要になります。ここでは、Windows XP SP2 の画面を用いて、インストール手順を説明します。他の OS でも、ダイアログ表示が多少異なりますが、ほぼ同じ手順です。また、OS によっては、自動でインストールが進む場合もあります。

a）PC に電源を投入し、Windows を起動します。

b）スキャナの USB コネクタを、PC の USB ポートに接続します。

※ **USB ハブは使用せず、スキャナを直接 PC に接続してください。**USB ハブ経由でもほとんどの場合は使用できますが、環境によっては、スキャナの動作が不安定になったり、動作しなかったりする場合があります。弊社では、USB ハブの使用はサポート外とさせていただいておりますのでご了承ください。設定によっては、2 回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。

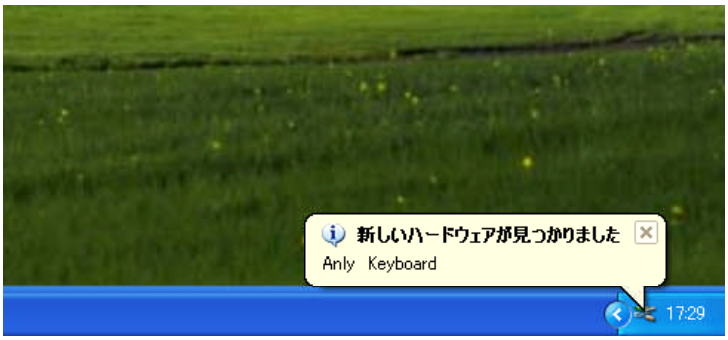
c）インジケータ LED が点滅し、スキャナのブザーが 1 回鳴ります。

※ インジケータ LED がまったく光らず、ブザー音もまったく鳴らなかった場合は、一旦 PC の電源を切り、ケーブルの接続を確認してやり直してください。それでも状況が改善されない場合は、巻末に記載の弊社担当窓口までご連絡ください。

※ 設定によっては、2 回目以降の接続では電源投入時の起動ブザー音が鳴動しないことがあります。

d) PC のディスプレイ画面のタスクトレイに「新しいハードウェアが見つかりました Anly Keyboard」のダイアログが数秒間表示された後、自動的にドライバのインストールが始まります。

※ OS が Windows Me 以前の場合は、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。その場合は、画面の指示に従って設定してください。



e）ドライバのインストールが完了すると、「新しいハードウェアが見つかりました 新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました。」と表示されます。これでインストールは完了です。

(2)　読取テスト:

文字入力できるアプリケーション(メモ帳など)を起動して、次のテストバーコードを読み取ります。

テストバーコード

カーソルの位置に「12345」と入力されていればテスト OK です。セットアップは完了しました。

この後、必要に応じて、各種パラメータを設定してください。

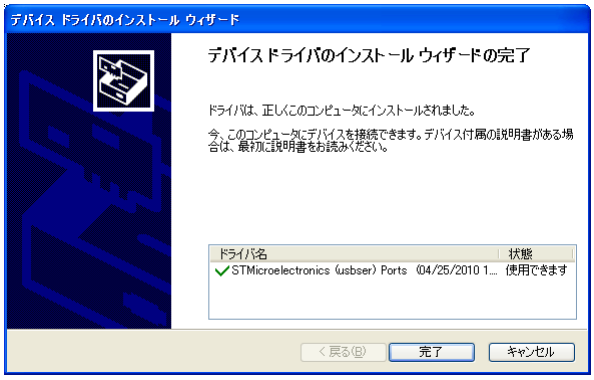
USB 仮想 COM インタフェースの接続手順

(1)　ドライバのインストール

a)弊社 WEB サイトから、USB 仮想 COM ドライバをダウンロードして実行します。

※　32bit OS 用／64bit OS 用があります。ご利用の PC に合わせて選択してください。

b)画面の指示に従ってインストールを進めます。下記の画面で完了ボタンを押すと、ドライバのインストールが完了します。



(2)　インタフェース設定の変更

次の設定バーコードを読み取って、スキャナのインタフェースを USB 仮想 COM に変更します。

開始

↓

USB 仮想 COM

↓

終了

(3)　PC のディスプレイ画面のタスクトレイに「新しいハードウェアが見つかりました STMicroelectronics Virtual COM Port」のダイアログが数秒間表示された後、自動的にドライバのインストールが始まります。

ドライバのインストールが完了すると、「新しいハードウェアが見つかりました 新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました。」と表示されます。これでインストールは完了です。

※ COM ポート番号は、デバイスマネージャーの「ポート(COM と LPT)」にて、「STMicroelectronics Virtual COM Port」を確認してください。

設定手順

(1)　変更したいパラメータの記載されているページを開きます。
(2)　ページ左上の「開始」バーコードを読み取ります。ブザーが「プピピ、ピーッ」と 4 音のメロディで鳴り、設定モードに入ったことを知らせます。設定モードの間は、表示 LED が点滅し続けます。
(3)　変更したいパラメータの設定バーコードを読み取ります。ブザーが「プププ」と 3 回鳴り、設定バーコードを読み取ったことを知らせます。（パラメータによって、ブザーの鳴り方、メロディは異なります。）
(4)　必要な設定が終わったら、ページ右上の「終了」バーコードを読み取ります。ブザーが「ピププ、ピーッ」と 4 音のメロディで鳴り、設定が終了したことを知らせます。
(5)　複数のパラメータを変更する場合は、1～4を同様に繰り返します。

※ 設定内容がわからなくなってしまった場合は、一度『出荷時設定』に戻してから、必要に応じてパラメータを変更してください。
※ パラメータによっては、複数の設定バーコードを順番に読み取って設定するものがあります。順番を間違えると、「ププププッ」と短いブザーが 4 回鳴ります。
※ パラメータによっては、『終了』バーコードが不要で、自動的に設定終了となるものがあります。

設定例：インタリーブド 2 オブ 5（ITF）の読取りを許可する場合：

(1)　44 ページを開きます。
(2)　ページ左上の「開始」バーコードを読み取ります。
(3)　「読み取り許可」バーコードを読み取ります。
(4)　ページ右上の「終了」バーコードを読み取ります。

設定を中止するには

※この項の設定では、「開始」「終了」バーコードの読み取りは必要ありません。
　目的のメニューバーコードを直接読み取りしてください。

設定中止

設定を途中で終了する場合に読み取ります。

強制リセット

設定中にLEDが点灯するが、バーコードを読み取らない状態になってしまったときは、この設定バーコードを読み取ってください。

出荷時設定

USB インタフェース／PS/2 インタフェースの出荷時設定

USB インタフェースおよび PS/2 キーボードインタフェースの FFTA7 シリーズスキャナを出荷時設定に戻すには、次の 5 つの設定バーコードを上から順に読み取ります。

※ この項の設定では、「開始」「終了」バーコードの読み取りは必要ありません。

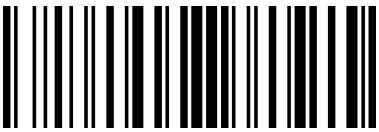
※ 出荷時に下記設定をしてありますので、通常はそのままでお使いいただけます。

設定初期化

（初期化完了までに少し時間がかかります）

↓

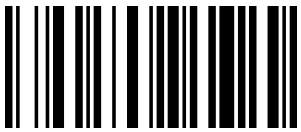
↓



開始

↓

↓



日本語キーボード

↓

↓

エイミング照射オフ

↓

↓

終了

※ 設定バーコードで、下線のついている項目は、上記の出荷時設定を行なったときに設定される項目です。

※ FFTA7 シリーズは、インタフェースケーブルを自動検出するので、インタフェース選択の設定は不要です。
（USB インタフェースでの、HID キーボード／仮想 COM の切替えは設定が必要です。）

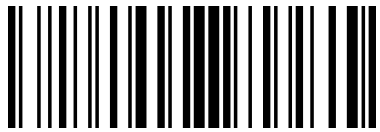
※ノートブックに接続で2又ケーブルにキーボード等を繋がない場合は P13 の”インタフェースの各種設定”にて
ノートブック接続に設定の変更が必要です。

RS232 シリアルインタフェースの出荷時設定

RS232 シリアルインタフェースの FFTA7 シリーズスキャナを出荷時設定に戻すには、次の 4 つの設定バーコードを左上から順に読み取ります。

※ この項の設定では、「開始」「終了」バーコードの読み取りは必要ありません。

※ 出荷時に下記設定をしてあります。接続機器に合わせて、通信設定を行なってください。



設定初期化

（初期化完了までに少し時間がかかります）

↓

↓

開始

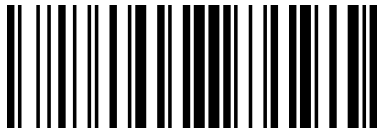
↓

↓

エイミング照射オフ

↓

↓



終了

※ 設定バーコードで、下線のついている項目は、上記の出荷時設定を行なったときに設定される項目です。

※ FFTA7 シリーズは、インタフェースケーブルを自動検出するので、インタフェース選択の設定は不要です。

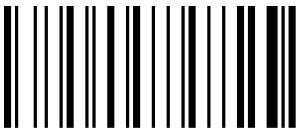
開始

スキャンモードの設定

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取る必要はありません。
「開始」バーコードに続いて目的のメニューバーコードを読み取れば設定完了となります。
※スキャンモードの変更は、設定完了後にトリガーを押すと有効になります。

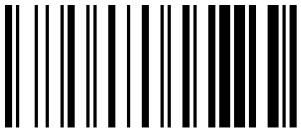
トリガーon/off

トリガーを押している間、LED が点灯し、読取りを行ないます。
トリガーを離すと LED が消灯します。



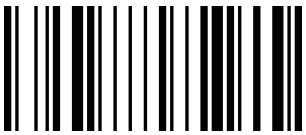
トリガーon/読み取り成功 off

トリガーを押すと LED が点灯し、読取りを行ないます。
読取りに成功すると LED が消灯します。
(トリガーを押してすぐ離した場合でも、10 秒間は LED が
点灯して読取りを行ないます。)



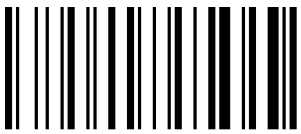
連続 on/トリガーoff

トリガーを押すと LED が点灯したままになり、連続読取りが
可能になります。
もう一度トリガーを押すと、LED が消灯します。
重複読み防止時間を設定できます。(次項)



重複読み防止時間の設定

『連続 on/トリガーoff』のときに、同一バーコードを一定時間
重複読みしないように設定できます。(0.1 秒単位)
設定可能範囲は、0.1 秒(01h)～25.5 秒(FFh)です。
設定を 00h にすると、重複読み防止機能が無効になります。
初期設定値は 1 秒(0Ah)です。
例:重複読み防止時間を 3 秒(1Eh)にする場合…
『開始』→『重複読み防止時間の設定』→『1』→『E』



連続 on/常時点灯

LED が常時点灯します。連続読取りが可能です。
(設定完了後、一度トリガーを押すと常時点灯になります。)

トリガーon/連続読取り/
再トリガーまたは 30 秒 off

トリガーを押すと LED が点灯し、読取りを行ないます。
読取りに成功しても LED は消灯せず、連続で読み取りが
可能です。もう一度トリガーを押すか、30 秒間何も読み取ら
なかった場合、LED は消灯します。
(トリガーを押してすぐ離した場合でも、30 秒間は LED が
点灯して読取りを行ないます。)

開始

（スキャンモードの設定：続き）

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取る必要はありません。
「開始」バーコードに続いて目的のメニューバーコードを読み取れば設定完了となります。
※スキャンモードの変更は、設定完了後にトリガーを押すと有効になります。

トリガーon/連続読取り/
再トリガーまたは 120 秒 off

トリガーを押すと LED が点灯し、読取りを行ないます。
読取りに成功しても LED は消灯せず、連続で読み取りが可能です。もう一度トリガーを押すか、120 秒間何も読み取らなかった場合、LED は消灯します。
（トリガーを押してすぐ離した場合でも、120 秒間は LED が点灯して読取りを行ないます。）

点滅モード

トリガーを押すと LED が点灯したままになり、連続読取りが可能になります。10 秒間何も読み取らなかった場合、LED は点滅モードに移行します。点滅中もバーコードの読み取りは可能です。一度読取りに成功すると、点灯モードに復帰します。
点灯または点滅中にトリガーを押すと、LED が消灯します。

点滅間隔の設定

『点滅モード』の際の点滅間隔を設定できます。
点灯時間および消灯時間をそれぞれ 16 進 2 桁で指定します。
設定可能範囲は、0.3 秒（03h）～25.5 秒（FFh）です。
例）点灯：1 秒（0Ah）／消灯：0.6 秒（06h）にする場合…
『開始』→『点滅間隔の設定』→『0』→『A』→『0』→『6』

開始

終了

エイミング照射の設定

バーコードに狙いを定めるために、弱い光量で LED を常時照射することができます。エイミング照射で狙いを定めてから、トリガーボタンを押してバーコードを読み取ることができるので、特に、離し読みの際にバーコードが狙いやすくなります。

エイミング照射オフ

エイミング照射オン

読取確認 LED 色の設定 7T

※ この項目は、FFTA7T シリーズのみに有効な設定です。FFTA7A/FFTA7B シリーズでは、青色となります。

バーコードを読み取ったときの、表示 LED の色を選択できます。

緑

赤

開始

終了

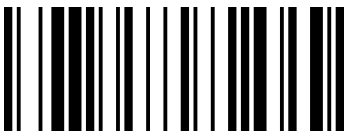
ブザー設定

1. ブザー音の設定

単音:高

複音:高

単音:中



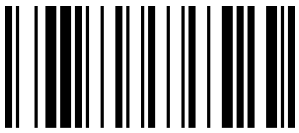
複音:中

単音:低

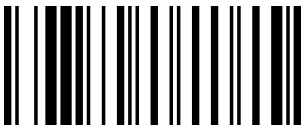
複音:低

無音

2. ブザー音長



長



短

3. 準備完了ブザーのオン／オフ切替

準備完了ブザー(電源投入時および設定完了時のピー音)を鳴らすかどうかを設定できます。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。
「開始」バーコードに続いて「準備完了ブザーのオン／オフ切替」のメニューバーコードを読み取りすれば設定完了となります。

※設定する毎に、オンとオフとが切り替わります。

準備完了ブザーのオン／オフ切替

開始

終了

キーボード接続の各種設定（USB および PS/2 共通）

1. キーボード種類（国別）設定

106（日本語）キーボード

101（英語）キーボード

※その他の言語のキーボードについては、巻末に記載の弊社担当窓口までお問い合わせください。

2. 文字送信（キーストローク）速度

最速

速

中

遅

スキャナからのキーボード入力信号を PC 側が受けきれない場合は、送信速度を遅くします。

インタフェースの各種設定

1. HID / 仮想 COM の選択

HID キーボード

USB 仮想 COM

2. PS／2 デスクトップ／ノートブックの選択

デスクトップ接続

ノートブック接続

開始

終了

RS-232 接続の各種設定

初期設定値

＜FFTA7 シリーズ＞の RS232 シリアルインタフェースにおける通信設定の初期設定値は次の通りです:

ハンドシェイク:	なし(無手順)	データビット:	8
ボーレート:	9600	パリティ:	なし
スタートビット:	1(固定)		

1. ボーレート

1200

2400

4800

9600

19200

38400

2. データビット

7 ビット

8 ビット

開始

終了

（RS-232 接続の各種設定：続き）

3. パリティ

奇数（Odd）

偶数（Even）

なし（None）

4. ハンドシェイク

ハードウェア（RTS/CTS）

ソフトウェア（Xon/Xoff）

なし（無手順）

ハードウェア（RTS/CTS）
＋ ACK/NAK プロトコル

開始

（RS-232 接続の各種設定：続き）

5. ACK/NAK タイムアウトの設定

ACK/NAK の応答受信待機時間を設定します。
0.1 秒単位で、00hex（0.1 秒）から FFhex（25.6 秒）の間で設定できます。
初期設定値は 14hex（2.1 秒）です。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。
「開始」、「ACK/NAK タイムアウトの設定」バーコードに続いて、設定したい値の hex コード（2 桁）を巻末の「16 進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

ACK/NAK タイムアウトの設定

開始

（RS-232 接続の各種設定：続き）

6. ACK/NAK の詳細設定

＜NAK 受信時のデータ再送回数の設定＞
＜タイムアウト時のビープ音鳴動回数の設定＞

この項目では、「NAK 受信時のデータ再送回数」と「タイムアウト時のビープ音鳴動回数」を設定します。
「NAK 受信時のデータ再送回数」は、1から7の範囲で設定可能です。初期設定値は「3 回」です。
「タイムアウト時のビープ音鳴動回数」は、2から7の範囲で設定可能です。初期設定値は「5 回」です。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。
「開始」、「ACK/NAK の詳細設定」バーコードに続いて、NAK 受信時のデータ再送回数 1 桁（1～7）、タイムアウト時のビープ音の鳴動回数 1 桁（2～7）を巻末の「16 進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

例）「NAK 受信時のデータ再送回数」を「5 回」に、「タイムアウト時のビープ音鳴動回数」を「4回」に設定する場合：
「開始」→「ACK/NAK の詳細設定」→「5」→「4」（自動的に設定完了）

ACK/NAK の詳細設定

※この項目では、「NAK 受信時のデータ再送回数」と「タイムアウト時のビープ音鳴動回数」とを同時に設定します。
個別に設定することはできません。

開始

付加文字列の設定

送信するデータの前後に、任意の文字列を付加することができます。

FFTA7A/FFTA7B プリフィックス／サフィックスの設定

※ FFTA7T シリーズにおけるプリフィックス／サフィックスの設定は、20 ページ以降をご参照ください。

データの前後に各最大12文字、任意の文字列を付加することができます。

※ この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取る必要はありません。
「開始」、「プリフィックスの設定」または「サフィックスの設定」バーコードに続いて、巻末の「プリフィックス／サフィックス付加文字一覧」で、付加したい文字のバーコードを12個読み取れば設定完了になります。
※ 11文字以下に設定する場合は、必要分のバーコードを読み取った時点で「プリフィックス／サフィックス付加文字一覧」ページ下部の「決定」バーコードを読み取れば設定完了になります。
※ 「プリフィックス／サフィックス付加文字一覧」ではなく、「16進設定バーコード」で、付加したい文字の hex コード（2桁）を読み取ることでも設定が可能です。ASCII 制御キャラクタ（00h～1Fh）はこの方法で設定します。
※ RS232 シリアルインタフェース、USB 仮想 COM インタフェースで設定可能な文字は、ASCII キャラクタ（00hex～7Fhex）です。
※ USBキーボード（HID）インタフェース、PS/2キーボードインタフェースでは、ASCIIキャラクタ（20hex～7Fhex）に加えて、特殊キーを設定可能です。
※ 各文字の hex コードは、巻末の「ASCII キャラクタ配列表」および「特殊キー配列表」をご参照ください。
※ FFTA7 シリーズでは、サフィックスとターミネータとが統合され、ターミネータもサフィックスとして設定します。
次ページでは、一般的にターミネータとして設定されることが多い代表的なものを記載しています。
※ 初期値：「Enter」

プリフィックスの設定手順：
『開始』→『プリフィックスの設定』→プリフィックスに設定する文字を選択→『決定』（自動終了）

プリフィックスを「付加しない（プリフィックス無し）」に設定する場合：
『開始』→『プリフィックスの設定』→『決定』（自動終了）

※ サフィックスの設定手順は、「プリフィックスの設定手順」と同様です。「プリフィックス」を「サフィックス」と読み替えてください。

開始

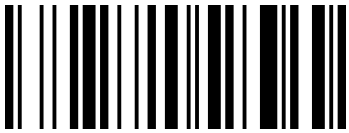
（FFTA7A/FFTA7B プリフィックス／サフィックスの設定の続き）

プリフィックスの設定

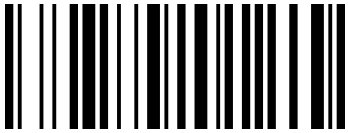
サフィックスの設定

（ターミネータ簡易設定用バーコード）

Enter

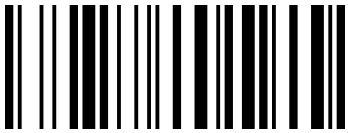


Space



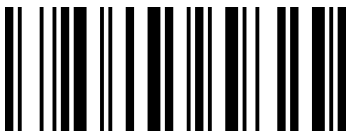
Tab

Esc



右 Ctrl

↓



決定

開始

FFTA7T プリフィックス／サフィックスの設定 7T

以下のそれぞれに、異なるプリフィックス／サフィックスが設定できます。

- 数量が「1」の場合（数量入力せずにトリガーボタンでバーコードを読み取ったとき）
- 数量が「2～999」の場合
- 「0」キーを押しながらバーコードを読み取ったとき
- 「M」キーを押しながらバーコードを読み取ったとき（※）

これにより、『トリガーボタン』・『「0」キー』・『「M」キー』によるターミネータ切替運用が可能となります。

※「M」キーを押しながらバーコードを読む場合、表示 LED は 2 回点灯します。LED 点灯の都度、ブザーも鳴ります。
（「M」キーを押した際に赤色点灯／バーコードを読み取った際に緑色点灯）

FFTA7T におけるプリフィックス／サフィックスの構造 7T

FFTA7T では、テンキー操作内容によって、異なるプリフィックス／サフィックスが付加されます。
プリフィックス／サフィックスがどのように付加されるかを以下に示します。
（DP＝データプリフィックス／DS＝データサフィックス／数量 P＝数量プリフィックス／数量 S＝数量サフィックス）

数量「1」のとき／トリガーボタンでバーコードを読み取ったとき:
［DP（数量 1）］［バーコードデータ］［DS（数量 1）］
（初期値：DP 無し）　（初期値：Enter）

数量「2～999」のとき:
(a)数量をバーコードデータの後ろに付加する場合:
［DP（数量 2～999）］［バーコードデータ］［DS（数量 2～999）］［数量 P］［数量データ］［数量 S］
（初期値：DP 無し）　（初期値：DS 無し）　（初期値：*）　（初期値：Enter）
(b)数量をバーコードデータの前に付加する場合:
［数量 P］［数量データ］［数量 S］［DP（数量 2～999）］［バーコードデータ］［DS（数量 2～999）］
（初期値：*）　（初期値：Enter）（初期値：DP 無し）　（初期値：DS 無し）

数量「0」キーでバーコードを読み取ったとき:
［DP（数量 0）］［バーコードデータ］［DS（数量 0）］
（初期値：DP 無し）　（初期値：Enter）

「M」キーでバーコードを読み取ったとき:
［DP（M キー）］［バーコードデータ］［DS（M キー）］
（初期値：DP 無し）　（初期値：Enter）

開始

数量プリフィックス／数量サフィックスの設定

テンキーから入力した数量が「2～999」のときに、数量データの前後に各最大 12 文字、任意の文字列を付加することができます。

※ この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取る必要はありません。
「開始」、「数量プリフィックスの設定」または「数量サフィックスの設定」バーコードに続いて、巻末の「プリフィックス／サフィックス付加文字一覧」で、付加したい文字のバーコードを12個読み取れば設定完了になります。

※ 11文字以下に設定する場合は、必要分のバーコードを読み取った時点で「プリフィックス／サフィックス付加文字一覧」ページ下部の「決定」バーコードを読み取れば設定完了になります。

※ 「プリフィックス／サフィックス付加文字一覧」ではなく、「16進設定バーコード」で、付加したい文字の hex コード（2桁）を読み取ることでも設定が可能です。ASCII 制御キャラクタ（00h～1Fh）はこの方法で設定します。

※ RS232 シリアルインタフェース、USB 仮想 COM インタフェースで設定可能な文字は、ASCII キャラクタ（00hex～7Fhex）です。

※ USBキーボード（HID）インタフェース、PS/2キーボードインタフェースでは、ASCIIキャラクタ（20hex～7Fhex）に加えて、特殊キーを設定可能です。

※ 各文字の hex コードは、巻末の「ASCII キャラクタ配列表」および「特殊キー配列表」をご参照ください。

※ FFTA7 シリーズでは、サフィックスとターミネータとが統合されているので、「数量をバーコードデータの後ろに付加する設定」のときは、数量サフィックスの末尾がターミネータとなります。

※ 次ページでは、一般的にターミネータとして設定されることが多い代表的なものを記載しています。

※ 初期値：数量プリフィックス：*（アスタリスク）／数量サフィックス：Enter

数量プリフィックスの設定手順：
『開始』→『数量プリフィックスの設定』→プリフィックスに設定する文字を選択→『決定』（自動終了）

数量プリフィックスを「付加しない（プリフィックス無し）」に設定する場合：
『開始』→『数量プリフィックスの設定』→『決定』（自動終了）

※ 数量サフィックスの設定手順は、「数量プリフィックスの設定手順」と同様です。「プリフィックス」を「サフィックス」と読み替えてください。

開始

（数量プリフィックス／数量サフィックスの設定の続き）

数量プリフィックスの設定

数量サフィックスの設定

（ターミネータ簡易設定用バーコード）

Enter

Space

Tab

Esc

右 Ctrl

*（アスタリスク）

↓

決定

開始

データプリフィックス／データサフィックスの設定

バーコードデータの前後に各最大 12 文字、任意の文字列を付加することができます。
数量「1」のとき、数量「2～999」のとき、「0」キーにて読み取ったとき、「M」キーにて読み取ったとき、それぞれ別個のデータプリフィックス／データサフィックスが適用されます。

※ この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取る必要はありません。
「開始」、いずれかの「データプリフィックスの設定」「データサフィックスの設定」バーコードに続いて、巻末の「プリフィックス／サフィックス付加文字一覧」で、付加したい文字のバーコードを12個読み取れば設定完了になります。
※ 11文字以下に設定する場合は、必要分のバーコードを読み取った時点で「プリフィックス／サフィックス付加文字一覧」ページ下部の「決定」バーコードを読み取れば設定完了になります。
※ 「プリフィックス／サフィックス付加文字一覧」ではなく、「16進設定バーコード」で、付加したい文字の hex コード（2桁）を読み取ることでも設定が可能です。ASCII 制御キャラクタ（00h～1Fh）はこの方法で設定します。
※ RS232 シリアルインタフェース、USB 仮想 COM インタフェースで設定可能な文字は、ASCII キャラクタ（00hex～7Fhex）です。
※ USBキーボード（HID）インタフェース、PS/2キーボードインタフェースでは、ASCIIキャラクタ（20hex～7Fhex）に加えて、特殊キーを設定可能です。
※ 各文字の hex コードは、巻末の「ASCII キャラクタ配列表」および「特殊キー配列表」をご参照ください。
※ FFTA7 シリーズではサフィックスとターミネータとが統合されているので、数量「0」および「1」のときは、データサフィックスの末尾がターミネータとなります。また、数量をバーコードデータの前に付加する設定のときは、数量「2～999」においても、データサフィックスの末尾がターミネータとなります。
※ 次ページに、一般的にターミネータとして設定されることが多い代表的なものを記載しています。
※ 初期値:
データサフィックス「数量 1」「数量 2~999」「0 キー」「M キー」:付加しない
データサフィックス「数量 1」「0 キー」「M キー」:Enter／「数量 2~999」:付加しない

設定手順:
『開始』→いずれかの『データプリフィックスの設定』『データサフィックスの設定』→サフィックスに設定する文字を選択→『決定』（自動終了）

※ プリフィックス／サフィックスを「付加しない」に設定する場合は、次の順に設定バーコードを読み取ります。
『開始』→設定したいプリフィックス／サフィックスの設定バーコード→『決定』（自動終了）

開始

データプリフィックス

データプリフィックスの設定(数量 1)

データプリフィックスの設定(数量 2～999)

データプリフィックスの設定(0 キー)

データプリフィックスの設定(M キー)

データサフィックス

データサフィックスの設定(数量 1)

データサフィックスの設定(数量 2～999)

データサフィックスの設定(0 キー)

データサフィックスの設定(M キー)

(ターミネータ簡易設定用バーコード)

Enter

右 Ctrl

Esc

Tab

Space

1

↓

決定

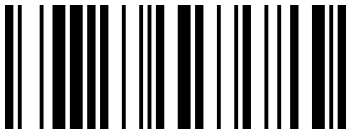
開始　　終了

数量データ付加位置の設定 71

数量データを、バーコードデータの前後どちらに付加するかを設定できます。また、数値データとして付加するのではなく、バーコードデータを繰り返し送信する「リピート回数の指定」とすることもできます。

バーコードデータの後ろに付加

バーコードデータの前に付加

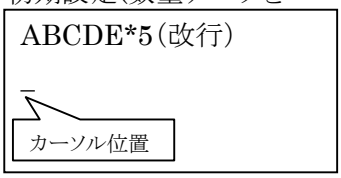


リピート回数の指定に使用

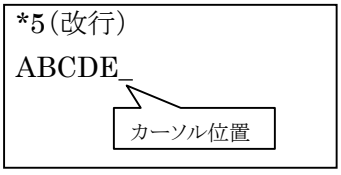
※ 数量データを「バーコードデータの前に付加」に設定した場合、数量プリフィックス／数量サフィックスもバーコードデータの前に移動します。

例）「ABCDE」というバーコードを、数量「5」で読み取った場合：

・初期設定(数量データをバーコードの後ろに付加)：



・数量データをバーコードデータの前に付加に変更した場合：



必要に応じて、データプリフィックス（数量 2～999）／データサフィックス（数量 2～999）／数量プリフィックス／数量サフィックスの設定を変更してください。

開始

終了

データキャリア識別子（コード ID）の設定

データの前にデータキャリア識別子（コード ID）を付加することができます。
JIS X0530 形式（3 文字）または任意のキャラクタ（6 文字まで）を設定することができます。

１．JIS X0530 形式

付加する

付加しない

JIS X0530 形式のアプリケーション識別子を付加します。

※ 「JIS X0530 形式」を「付加する」に設定すると、次項「カスタム設定」の設定は無視され、JIS X0530 形式のアプリケーション識別子が付加されます。

データキャリア識別子とは…

バーコードリーダが、読取ったデータを PC／ホスト機器に送信する際に付加する ID で、シンボル体系の種類の他、チェックキャラクタを検証したかどうか、送信データにはチェックキャラクタが含まれるのか含まれないのか、などの情報を表します。2000 年に ISO/IEC 15424 Data Carrier Identifiers (including Symbology Identifiers) として制定された国際規格で、日本では 2003 年に JIS X 0530『データキャリア識別子（シンボル体系識別子を含む）』として JIS 規格化されました。

例）コード 39 の”C+O+D+E39”というバーコードを読み取り、データキャリア識別子を付加して送信する場合：

1. フル ASCII 処理をしないでデータ送信…]A0C+O+D+E39
2. フル ASCII 処理してデータ送信……]A4Code39

データキャリア識別子の内容：
]：データキャリア識別子を示すフラグ
A：コード 39 を示すコードキャラクタ
0：『チェックキャラクタ検証もフル ASCII 処理もしない』ことを示す変更子キャラクタ
4：『フル ASCII キャラクタ変換を実行／チェックキャラクタは検証しない』ことを示す変更子キャラクタ

※ 詳しくは、JIS X 0530『データキャリア識別子（シンボル体系識別子を含む）』をご参照ください。

開始　　終了

２．カスタム設定

コード ID として、任意のキャラクタを 6 文字まで設定することができます。
※この設定は、前項「JIS X0530 形式」を「付加しない」に設定しているときのみ有効になります。
※カスタム設定を行った後で「JIS X0530 形式」を「付加する」に設定すると、カスタム設定は無視されますが、設定した内容は保持されています。そのため、「JIS X0530 形式」の設定を「付加しない」にすれば、この項で設定したカスタムコード ID が付加されます。

※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。
「開始」、「コード種別選択」バーコードに続いて、付加したい文字の hex コード（2桁）を2文字分、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。
1文字に設定する場合は、設定したい文字の hex コード（2桁）を読み取った時点で「16進設定バーコード」の「決定」バーコードを読み取りすれば設定完了になります。
※カスタム設定を解除するには、「FFhex」に設定します。
※複数のコードにカスタムコード ID を設定したい場合は、コード種別ごとに設定します。
※FFTA7AR で設定可能な文字は、ASCII キャラクタ（00hex～7Fhex）です。
※FFTA7AK／FFTA7AU では、ASCII キャラクタ（00hex～7Fhex）に加えて、特殊キーを 81hex～B0hex で設定可能です。
※各文字の hex コードは、P49,50 の「ASCII キャラクタ配列表」および「特殊キー配列表」をご参照ください。

コード種別選択

JAN / EAN-13　　JAN / EAN-8

UPC-A　　UPC-E

コード 39　　コーダバー（NW7）

開始

終了

インタリーブド 2 オブ 5

インダストリアル 2 オブ 5

マトリクス 2 オブ 5

コード 128

GS1-128

コード 93

コード 11

MSI

Plessey

TELEPEN

Pharmacode

GS1-データバー

開始

データ加工機能

読み取ったデータから、特定の部分を抜き出して送信することができます。

データ加工(1):削除から開始

データ加工(2):保持から開始

シンボル体系 16 進コード

JAN / EAN-13	00	インタリーブド 2 オブ 5	07	MSI	0B
JAN / EAN-8	01	インダストリアル 2 オブ 5	06	UK Plessey	0D
UPC-A	10	マトリクス 2 オブ 5	05	TELEPEN	0E
UPC-E	02	コード 128	08	GS1-DataBar(RSS)	11
コード 39	03	コード 93	09	GS1-128(EAN-128)	12
コーダバー(NW7)	04	コード 11	0A	未設定のシンボル体系すべて	FF

※ この項目では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。

※ シンボル体系ごとに、「データ加工」を 1 種類設定できます。「データ加工(1):削除から開始」「データ加工(2):保持から開始」を別々に同時に設定することはできません。最後に設定した内容が有効となります。

※ シンボル体系で「FF」を指定すると、個別に設定していないシンボル体系すべてに適用するデータ加工の設定となります。

※ GS1-128(EAN-128)の加工については ver. anly750 D702(D***以上)からとなりますのでご注意ください。バージョンについては P48 のバーコードにてご確認ください。

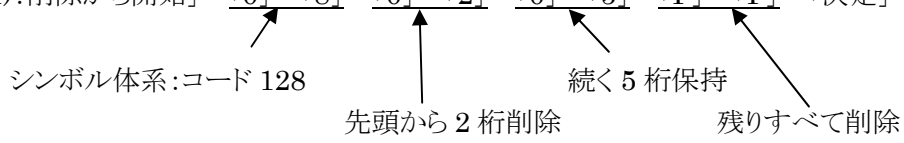
開始

設定手順

データの先頭(左端)のキャラクタを送信しない場合:

(1) 「開始」バーコードを読み取ります。
(2) 「データ加工(1):削除から開始」バーコードを読み取ります。
(3) データ加工したいシンボル体系の 16 進コード(2 桁)を、巻末の「16 進設定バーコード」で読み取ります。
(4) 先頭から何桁を削除するかを、16 進 2 桁で指定(巻末の「16 進設定バーコード」を読み取り)します。
(5) 続く何桁を保持するかを、16 進 2 桁で(巻末の「16 進設定バーコード」を読み取り)指定します。
(6) 必要に応じて、(4)～(5)を繰り返します。
(7) 削除・保持したい桁数をすべて設定し終えたら、巻末の「16 進設定バーコード」の「決定」バーコードを読み取ります。

例)コード 128 で、3 桁目～7 桁目の 5 キャラクタのみ送信したい場合:
「開始」→「データ加工(1):削除から開始」→「0」→「8」→「0」→「2」→「0」→「5」→「F」→「F」→「決定」



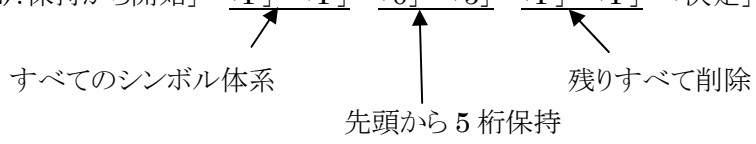
コード 128 の「ABC1234567」というバーコードを読み取った場合、送信データは「C1234」になります。

(8) 設定内容を破棄するには、次の順番で設定バーコードを読み取ります。
「開始」→「データ加工(1):削除から開始」または「データ加工(2):保持から開始」→「決定」

データの先頭(左端)のキャラクタを送信する場合:

(1) 「開始」バーコードを読み取ります。
(2) 「データ加工(2):保持から開始」バーコードを読み取ります。
(3) データ加工したいシンボル体系の 16 進コード(2 桁)を、巻末の「16 進設定バーコード」で読み取ります。
(4) 先頭から何桁を保持するかを、16 進 2 桁で指定(巻末の「16 進設定バーコード」を読み取り)します。
(5) 続く何桁を削除するかを、16 進 2 桁で(巻末の「16 進設定バーコード」を読み取り)指定します。
(6) 必要に応じて、(4)～(5)を繰り返します。
(7) 保持・削除したい桁数をすべて設定し終えたら、巻末の「16 進設定バーコード」の「決定」バーコードを読み取ります。

例)すべてのシンボル体系で、先頭から 5 キャラクタのみ送信したい場合:
「開始」→「データ加工(2):保持から開始」→「F」→「F」→「0」→「5」→「F」→「F」→「決定」



読み取ったデータが「ABC1234567」だった場合、送信データは「ABC12」になります。

(8) 設定内容を破棄するには、次の順番で設定バーコードを読み取ります。
「開始」→「データ加工(1):削除から開始」または「データ加工(2):保持から開始」→「決定」

開始

終了

読み取りバーコードシンボル体系の設定

すべてのバーコードシンボル体系の読取りを有効にする

すべて有効

※ 読み取りたいバーコードのシンボル体系が判らないときは、上記「すべて有効」設定バーコードを読み取り、すべてのバーコードシンボル体系の読取りを有効にします。

※ すべて有効に設定すると、予期せぬバーコードを読み取ったり、バーコードに近似した波形となるもの（文字列など）をバーコードと認識する場合があります。読み取りたいバーコードシンボル体系が判明したら、そのシンボル体系のみを有効にすることをお勧めします。

すべてのバーコードシンボル体系の読取りを無効にする

すべて無効

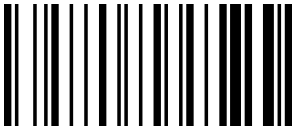
※読み取りたいバーコードのシンボル体系が判っていて、想定外のバーコードを誤って読み取るのを避けたい場合は、上記「すべて無効」設定バーコードを読み取ってから、次ページ以降のメニューで、読み取りたいバーコードのシンボル体系を個別に読み取り有効に設定します。

開始

終了

バーコードシンボル体系　有効／無効の設定

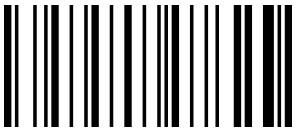
JAN / EAN -13



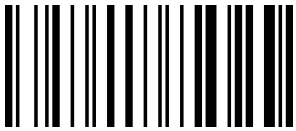
JAN / EAN -13 有効

JAN / EAN -13 無効

JAN / EAN -8



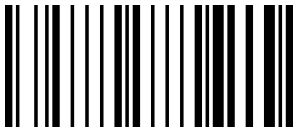
JAN / EAN -8 有効



JAN / EAN -8 無効

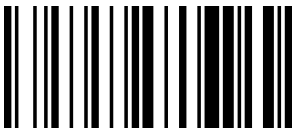
UPC-A

UPC-A 有効

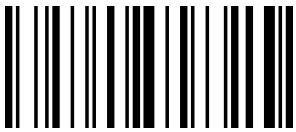


UPC-A 無効

UPC-E

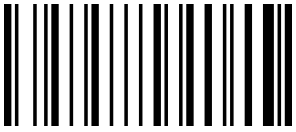


UPC-E 有効



UPC-E 無効

コード 39



コード 39 有効

コード 39 無効

コーダバー（NW7）

コーダバー（NW7）有効

コーダバー（NW7）無効

開始

終了

インタリーブド 2 オブ 5

インタリーブド 2 オブ 5 有効

インタリーブド 2 オブ 5 無効

インダストリアル 2 オブ 5

インダストリアル 2 オブ 5 有効

インダストリアル 2 オブ 5 無効

マトリクス 2 オブ 5

マトリクス 2 オブ 5 有効

マトリクス 2 オブ 5 無効

コード 128

コード 128 有効

コード 128 無効

コード 93

コード 93 有効

コード 93 無効

コード 11

コード 11 有効

コード 11 無効

開始

終了

MSI / Plessey

MSI / Plessey 有効

MSI / Plessey 無効

TELEPEN

TELEPEN 有効

TELEPEN 無効

Pharmacode

Pharmacode 有効

Pharmacode 無効

GS1 データバー（DataBar）

GS1 データバー有効

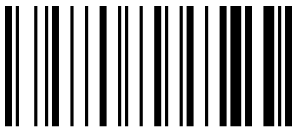
GS1 データバー無効

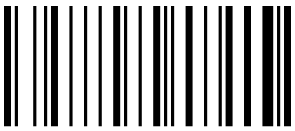
開始

終了

JAN / EAN-13 の詳細設定

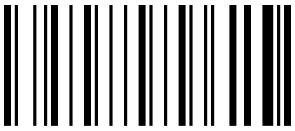
1. 読み取り許可


読み取り許可


読み取り禁止

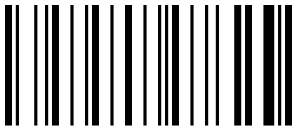
2. JAN / EAN -13 チェックキャラクタ送信

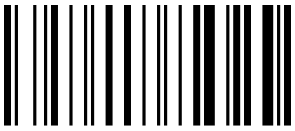
送信する


送信しない

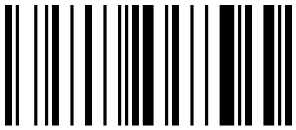
JAN / EAN-8の詳細設定

1. 読み取り許可


読み取り許可


読み取り禁止

2. チェックキャラクタ送信


送信する

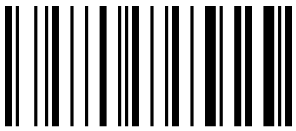
送信しない

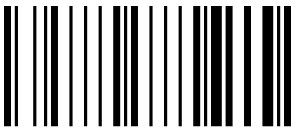
開始

終了

UPC-A の詳細設定

1. 読み取り許可

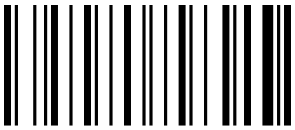

読み取り許可


読み取り禁止

※UPC-A を「読み取り禁止」に設定しても、EAN-13 / JAN-13 を「読み取り許可」に設定している場合、UPC-A を EAN-13 とみなして読取りを行い、13 桁に変換(左端に0を付加)して送信します。

2. UPC-A チェックキャラクタ送信

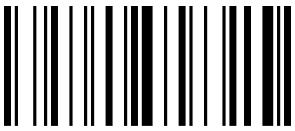
送信する


送信しない

UPC-E の詳細設定

1. 読み取り許可

読み取り許可


読み取り禁止

2. チェックキャラクタ送信

送信する

送信しない

開始

終了

UPC / JAN / EAN 変換の設定

1. UPC-E を UPC-A に変換

変換する

変換しない

2. UPC-A を JAN / EAN-13 に変換

変換する

変換しない

3. JAN / EAN-8 を JAN / EAN-13 に変換

変換する

変換しない

4. 図書 2 段バーコード上段を ISBN 10 桁に変換

変換する

変換しない

開始　　終了

JAN / EAN / UPC アドオンの設定

1. JAN / EAN / UPC アドオン 2 桁／5 桁 必須選択

必須にする
（アドオンありのみ読取り）

必須にしない

2. JAN / EAN / UPC アドオン 2 桁／5 桁 許可

アドオン許可
（アドオンも読み取り）

アドオンは無視

※この設定は、「1. JAN / EAN / UPC アドオン 2 桁／5 桁 必須選択」が「必須にしない」に設定されているときのみ有効です。「1. JAN / EAN / UPC アドオン 2 桁／5 桁 必須選択」が「必須にする」に設定されている場合は、この項目の設定は無視されます。

3.「491～」で始まる JAN-13 桁のアドオン必須設定

必須にする
（アドオンありのみ読取り）

必須にしない

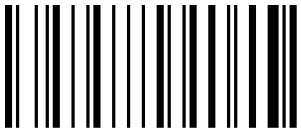
※この設定は、「1. JAN / EAN / UPC アドオン 2 桁／5 桁 必須選択」が「必須にしない」に設定されているときのみ有効です。「1. JAN / EAN / UPC アドオン 2 桁／5 桁 必須選択」が「必須にする」に設定されている場合は、この項目の設定は無視されます。

開始

終了

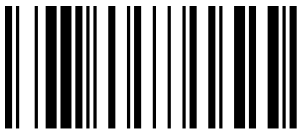
コード 39 の詳細設定

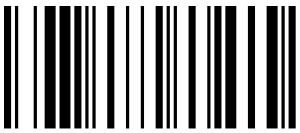
1. 読み取り許可


読み取り許可

読み取り禁止

2. ASCII 変換


Full ASCII 変換する

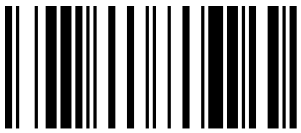

Full ASCII 変換しない

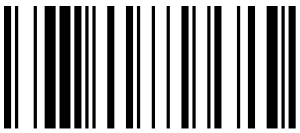
3. スタート／ストップキャラクタ送信

送信する

送信しない

4. チェックキャラクタ照合


照合する


照合しない

開始

終了

5. チェックキャラクタ送信

送信する

送信しない

※「送信しない」は、「4. チェックキャラクタ照合」で「照合する」に設定した場合のみ有効になります。
チェックキャラクタを「照合しない」に設定している場合は、最終桁までデータキャラクタとして扱われるため、この項の設定にかかわらず最終桁も送信されます。

6. 読取り桁数範囲の指定

コード 39 桁数範囲の指定

読取り桁数を 1～48 桁の範囲で指定することができます。
但し、読取り可能な視野を超えてしまったり、印刷品質が悪かったりした場合は、上記桁数内でも読取りできない場合がありますのでご注意ください。
※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。
「開始」、「桁数範囲の指定」バーコードに続いて、最小桁数の hex コード(2桁)および最大桁数の hex コード(2桁)を、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

例)読取り桁数範囲を 10 桁(0Ahex)から 13 桁(0Dhex)に設定する場合:
「開始」→「コード 39 桁数範囲の指定」→「0」→「A」→「0」→「D」

開始

終了

コーダバー（NW7）の詳細設定

1. 読み取り許可

読み取り許可

読み取り禁止

2. スタート／ストップコード送信

送信する

送信しない

3. スタート／ストップコード

ABCD / ABCD

ABCD / TN*E

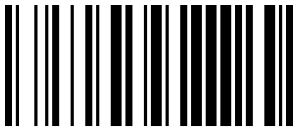
ABCD / abcd

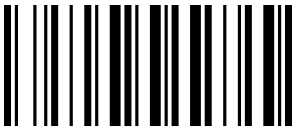
ABCD / tn*e

開始

終了

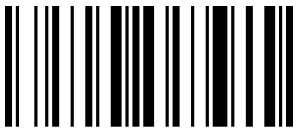
4. キャラクタ間ギャップのチェック


チェックする


チェックしない

※コーダバー（NW7）で誤読が発生するとき、「チェックする」に設定することで改善される場合があります。

5. チェックキャラクタの照合（モジュラス 16）


照合する

照合しない

6. チェックキャラクタの送信

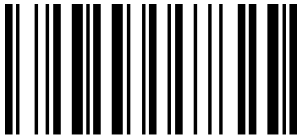
送信する

送信しない

※「送信しない」は、「5. チェックキャラクタの照合」で「照合する」に設定した場合のみ有効になります。
チェックキャラクタを「照合しない」に設定している場合は、最終桁までデータキャラクタとして扱われるため、この項の設定にかかわらず最終桁も送信されます。

開始

7. 読取り桁数範囲の指定


桁数範囲の指定

読取り桁数を 1～50 桁の範囲で指定することができます。
但し、読取り可能な視野を超えてしまったり、印刷品質が悪かったりした場合は、上記桁数内でも読取りできない場合がありますのでご注意ください。
※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。
「開始」、「桁数範囲の指定」バーコードに続いて、最小桁数の hex コード(2桁)および最大桁数の hex コード(2桁)を、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

例)読取り桁数範囲を 10 桁(0Ahex)から 13 桁(0Dhex)に設定する場合:

「開始」→「桁数範囲の指定」→「0」→「A」→「0」→「D」

開始　　終了

インタリーブド 2 オブ 5(ITF)の詳細設定

1. 読み取り許可

読み取り許可　　読み取り禁止

2. チェックキャラクタ照合

照合する　　照合しない

3. チェックキャラクタ送信

送信する　　送信しない

※「送信しない」は、「2. チェックキャラクタ照合」で「照合する」に設定した場合のみ有効になります。
チェックキャラクタを「照合しない」に設定している場合は、最終桁までデータキャラクタとして扱われるため、この項の設定にかかわらず最終桁も送信されます。

4. 読取り桁数範囲の指定

ITF 桁数範囲の指定

読取り桁数を 2～80 桁の範囲で指定することができます。**(初期は 4 桁より読取り可能となっております。)**
但し、読取り可能な視野を超えてしまったり、印刷品質が悪かったりした場合は、上記桁数内でも読取りできない場合がありますのでご注意ください。
※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。
「開始」、「桁数範囲の指定」バーコードに続いて、最小桁数の hex コード(2桁)および最大桁数の hex コード(2桁)を、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

例)読取り桁数範囲を 10 桁(0Ahex)から 14 桁(0Ehex)に設定する場合:
「開始」→「ITF 桁数範囲の指定」→「0」→「A」→「0」→「E」

開始　　終了

インダストリアル 2 オブ 5 の詳細設定

1. 読み取り許可

読み取り許可　　読み取り禁止

2. チェックキャラクタ照合

照合する　　照合しない

3. チェックキャラクタ送信

送信する　　送信しない

※「送信しない」は、「2. チェックキャラクタ照合」で「照合する」に設定した場合のみ有効になります。
チェックキャラクタを「照合しない」に設定している場合は、最終桁までデータキャラクタとして扱われるため、この項の設定にかかわらず最終桁も送信されます。

4. 読取り桁数範囲の指定

Ind25 桁数範囲の指定

読取り桁数を 4～48 桁の範囲で指定することができます。**(初期は 4 桁より読取り可能となっております。)**
但し、読取り可能な視野を超えてしまったり、印刷品質が悪かったりした場合は、上記桁数内でも読取りできない場合がありますのでご注意ください。
※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。
「開始」、「桁数範囲の指定」バーコードに続いて、最小桁数の hex コード(2桁)および最大桁数の hex コード(2桁)を、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

例)読取り桁数範囲を 10 桁(0Ahex)から 14 桁(0Ehex)に設定する場合:
「開始」→「Ind25 桁数範囲の指定」→「0」→「A」→「0」→「E」

開始

終了

マトリクス 2 オブ 5 の詳細設定

1. 読み取り許可

読み取り許可

読み取り禁止

2. チェックキャラクタ照合

照合する

照合しない

3. チェックキャラクタ送信

送信する

送信しない

※「送信しない」は、「2. チェックキャラクタ照合」で「照合する」に設定した場合のみ有効になります。
チェックキャラクタを「照合しない」に設定している場合は、最終桁までデータキャラクタとして扱われるため、この項の設定にかかわらず最終桁も送信されます。

4. 読取り桁数範囲の指定

M25 桁数範囲の指定

読取り桁数を 4～48 桁の範囲で指定することができます。**(初期は 4 桁より読取り可能となっております。)**
但し、読取り可能な視野を超えてしまったり、印刷品質が悪かったりした場合は、上記桁数内でも読取りできない場合がありますのでご注意ください。
※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。
「開始」、「桁数範囲の指定」バーコードに続いて、最小桁数の hex コード(2桁)および最大桁数の hex コード(2桁)を、巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了になります。

例)読取り桁数範囲を 10 桁(0Ahex)から 14 桁(0Ehex)に設定する場合:
「開始」→「M25 桁数範囲の指定」→「0」→「A」→「0」→「E」

開始

終了

コード 128 ／GS1-128(EAN128)の詳細設定

1. コード 128 読み取り許可

読み取り許可

読み取り禁止

2. GS1-128(EAN128)読み取り許可

読み取り許可

読み取り禁止

3. <FNC1>置き換え設定

コード 128(GS1-128 を含む)のバーコードデータに<FNC1>が含まれているとき、<FNC1>を任意の ASCII キャラクタに変換して出力することができます。また、何も出力しないこともできます。

※スタートコード直後の<FNC1>(GS1-128 を示すフラグ)は置き換え対象外となり、常に出力しません。
※この項目の設定では、「終了」バーコードを読み取りする必要はありません。
「開始」、「<FNC1>置き換え設定」バーコードに続いて、設定したい文字の hex コード(2 桁)を巻末の「16進設定バーコード」で読み取りすれば設定完了となります。
※RS232 インタフェースで設定可能な文字は、ASCII キャラクタ(00hex～7Fhex)です。
※キーボードインタフェース(USB HID および PS/2)では、ASCII キャラクタ(00hex～7Fhex)に加えて、特殊キーを 81hex～B0hex で設定可能です。ただし、キーボード入力として不自然な設定にすると、データを正しく送信できない場合があります。
※各文字の hex コードは、巻末の「ASCII キャラクタ配列表」および「特殊キー配列表」をご参照ください。
※「FFhex」に設定すると、「何も出力しない」に設定されます。

例)
1) <FNC1>を<GS>に変換する場合: 「開始」→「<FNC1>置き換え設定」→「1」→「D」
2) <FNC1>をカンマ(,)に変換する場合: 「開始」→「<FNC1>置き換え設定」→「2」→「C」

初期設定値は「FF」(何も出力しない)です。

<FNC1>置き換え設定

保守メニュー

1. ファームウェアのバージョン確認

※この項の設定では、「開始」「終了」バーコードの読取りは必要ありません。
目的のメニューバーコードを直接読取りしてください。

バージョン確認

このメニューバーコードを読取ると、ファームウェアのバージョンがデータとしてスキャナから送信されます。

※ 本取扱説明書(1.2 版)は、次のファームウェアバージョンに対応しています。

- ver1 anly750 CC01 以降

RS232 ケーブル ピン配列表

電源ジャック	D-Sub 9pin (メス) ピン番号	スキャナ		信号方向 スキャナ⇔ホスト	ホスト側(参考)	
		内容	信号名		信号名	内容
	1	接地	FG	－	FG	接地
	2	送信データ	SD	→	RD	受信データ
	3	受信データ	RD	←	SD	送信データ
	4	未接続	未接続	－	未接続	未接続
アウター(※1)	5	信号用接地	SG	－	SG	信号用接地
	6	未接続	未接続	－	未接続	未接続
	7	送信可能	CS	←	RS	送信要求
	8	送信要求	RS	→	CS	送信可能
センター(※2)	9	+DC5V 94mA 以上	VCC	－	VCC	(+DC5V 94mA 以上)

※1.

5番ピンおよび電源ジャックのアウターは、内部的に共通です。

※2.

9番ピンと電源ジャックのセンターとは内部的に共通で、排他ではありません。

9番ピンから電源供給する場合は、外部電源ジャックからは電源供給をしないでください。

ASCII キャラクタ配列表(00hex～7Fhex)

上位桁 / 下位桁	0	1	2	3	4	5	6	7
0	NUL	DLE	空白	0	@	P	`	p
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q
2	STX	DC2	"	2	B	R	b	r
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s
4	EOT	DC4	$	4	D	T	d	t
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v
7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w
8	BS	CAN	(	8	H	X	h	x
9	HT	EM	)	9	I	Y	i	y
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z
B	VT	ESC	+	;	K	[	k	{
C	FF	FS	,	<	L	¥	l	|
D	CR	GS	-	=	M	]	m	}
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~
F	SI	US	/	?	O	_	o	

特殊キー配列表（81hex～C2hex）

上位桁 / 下位桁	8	9	A	B	C
0		F1	-（テンキー）	左 Shift 押しながら Tab	7（テンキー）
1	Home	F2	*（テンキー）	Alt メソッドで 1キャラクタ	8（テンキー）
2	End	F3	/（テンキー）	左 Windows キー Make（※2）	9（テンキー）
3	Page Up	F4	Caps Lock	左 Windows キー Break（※2）	
4	Page Down	F5	Num Lock	右 Windows キー Make（※2）	
5	Insert	F6	左 Alt	右 Windows キー Break（※2）	
6	Delete	F7	左 Ctrl	アプリケーションキー Make（※2）	
7	+（テンキー）	F8	左 Shift	アプリケーションキー Break（※2）	
8	Back Space	F9	右 Alt	ポーズ（一時停止）	
9	Tab	F10	右 Ctrl	0（テンキー）	
A	Enter	F11	右 Shift	1（テンキー）	
B	←	Esc	左 Alt Make（※2）	2（テンキー）	
C	→	F12	左 Alt Break（※2）	3（テンキー）	
D	Enter（テンキー）	左 Shift 押しながら 1キャラクタ（※1）	左 Ctrl Make（※2）	4（テンキー）	
E	↑	左 Ctrl 押しながら 1キャラクタ（※1）	左 Ctrl Break（※2）	5（テンキー）	
F	↓	左 Alt 押しながら 1キャラクタ（※1）	Print Screen	6（テンキー）	

※1　例）サフィックスを「左 Alt を押しながら“f”（66hex）を押す」に設定する場合

設定：「開始」→「サフィックスの設定」→「9」→「F」→「6」→「6」→「決定」

サフィックスの設定内容：“左 Alt”押す→“f”押して離す→“左 Alt”離す

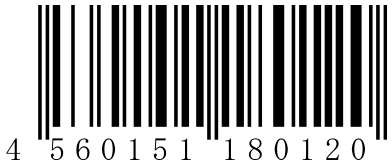
※2　例）サフィックスを「左 Ctrl と左 Alt を押しながら“h”（68hex）を押す」に設定する場合

設定：「開始」→「サフィックスの設定」→「A」→「D」→「A」→「B」→「6」→「8」→「A」→「C」→「A」→「E」→「決定」

サフィックスの設定内容：“左 Ctrl”押す→“左 Alt”押す→“h”押して離す→“左 Alt”離す→“左 Ctrl”離す

サンプルバーコード

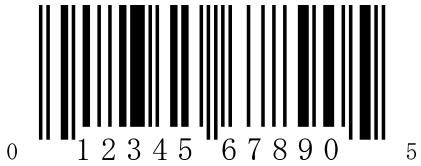
JAN / EAN-13



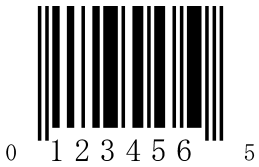
JAN / EAN-13 + アドオン 5 桁（新雑誌コード）

JAN / EAN-8

UPC-A

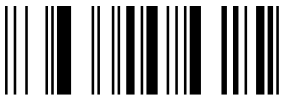


UPC-E



コード 39（チェックキャラクタなし）

RSS14



コード 39（チェックキャラクタ付）

RSS Limited

コード 39（フルアスキー）

RSS Stacked Omni Directional

※ トリガーボタンを押したまま、上下になぞるようにして読み取ります。
「上→下」「下→上」どちらでも読み取り可能です。

コーダバー(チェックキャラクタなし)

a123456789a

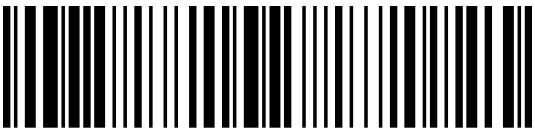
コーダバー(チェックキャラクタ付)

a123451a

コード 128

NICHIEI-INTEC

GS1-128

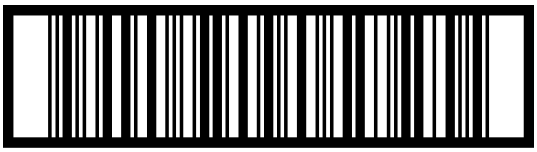


(21) 060428 (11) 060525

インタリーブド 2 オブ 5

0123456

ITF-14



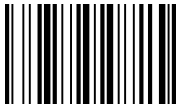
14560151181353

プリフィックス／サフィックス付加文字一覧

0

A

K


U

1

B

L

V

2

C

M

W

3

D

N

X

4

E

O

Y

5

F

P

Z

6

G

Q

7

H

R

8

I

S

9

J

T

決定

a

k

u

b

l

v

c

m

w

d

n

x

e

o

y

f

p

z

g

q

h

r

i

s

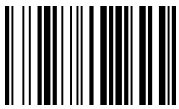
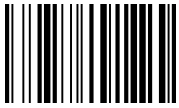
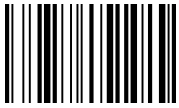
j

t

決定

Space	*	>	|
!	+	?	}
“	,	@	~
#	-	[	Home
$	.	¥	End
%	/	]	Page Up
&	:	^	Page Down
‘	;	_	Insert
(	<	`	Delete
)	=	{	+ (テンキー)

決定

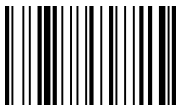
Back Space	F3	F12	左 Ctrl
Tab	F4	左 Shift 押しながら1キャラクタ	 左 Shift
Enter	F5	左 Ctrl 押しながら1キャラクタ	 右 Alt
←	F6	左 Alt 押しながら1キャラクタ	右 Ctrl
→	F7	 -(テンキー)	右 Shift
Enter（テンキー）	F8	*(テンキー)	左 Alt Make
↑	F9	/(テンキー)	左 Alt Break
↓	F10	Caps Lock	左 Ctrl Make
F1	F11	Num Lock	左 Ctrl Break
F2	Esc	左 Alt	Print Screen

決定

左 Shift 押しながら Tab

アプリケーションキー Make

0（テンキー）


5（テンキー）

左 Windows キー Make

アプリケーションキー Break

1（テンキー）

6（テンキー）

左 Windows キー Break

2（テンキー）

7（テンキー）

右 Windows キー Make

3（テンキー）

8（テンキー）

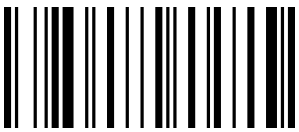
右 Windows キー Break

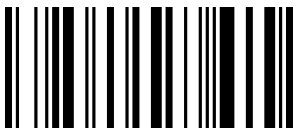
4（テンキー）

9（テンキー）

決定

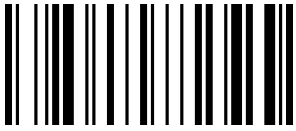
16進設定バーコード


0


8

1

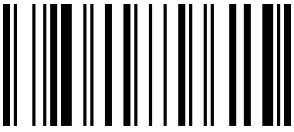
9


2

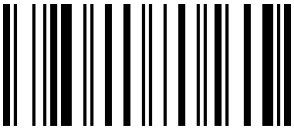
A

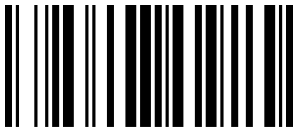
3

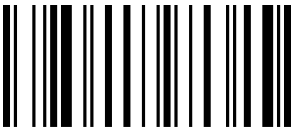
B


4

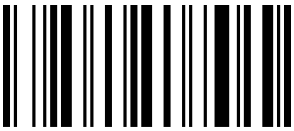
C


5


D


6

E


7

F

決定

日栄インテック株式会社

開発事業部 バーコードグループ

〒110-0016
東京都台東区台東 3-42-5 日栄インテック御徒町第 1 ビル
TEL 03-5816-7141 FAX 03-5816-7140
E-Mail info@barcode.ne.jp

URL ***http://www.barcode.ne.jp/***

2014 年 3 月改訂